



企画にあたって

藤生 克仁

(東京大学医学部附属病院不整脈センター センター長

東京大学医学部附属病院 循環器内科

東京大学大学院医学系研究科先進循環器病学 特任准教授)

植込み型心臓不整脈デバイス (CIED) は、種類の増加、機能の追加が毎年のように行われる。すべての最新知識を維持し、最新の手技をすべて網羅している医師が理想ではあるが、実際にはそのような医師は多くないのである。

最新機能の使い方、新機能に伴う新しいトラブルシューティングの方法は、医師、臨床工学技士、メーカーの方などが、治療の都度相談しながら進めることが多いのではないだろうか。すなわち、すべての知識をいつも暗記していなくても実臨床では困ることはないのである。一方で、植込み型心臓不整脈デバイスを扱う医療関係者にとって、これだけは押さえておかないといけない最低限の知識が存在する。この点はもれなく身に着けておくことが大切である。

本特集では、植込み型心臓不整脈デバイス治療の領域で駆け出したばかりの方、あるいは、長年デバイスを扱っているが、最新の機能は使い方がさっぱりわからないという比較的経験のある方を含めた「デバイスに関わる方すべてを対象」としたい。そして、本特集さえ読めば、最新のデバイス治療のなかで、最低限必要な部分を網羅的に把握することができ、十分に最新のデバイス治療が実践できるようになることを目指す。

そのために、今回、わが国でデバイス治療の第一線で活躍している現場の医療関係者の先生方にご執筆いただいた。この一冊を通して国内のいろいろな施設で、大変詳しい第一人者から上質な教育を受けたような感覚になれるであろう。本特集が入門者によって必ず覚えておかねばならない虎の巻になること、さらに中級者、上級者にとってもうっかり忘れてしまったときに、時々見返したくなるような知識本になることを期待する。